

勉学の旗

(高須中学校だより)

平成29年5月19日号 高須中学校長 山口和久



一月(ひとつき)を振り返って

新年度が始まり、一月半がたちました。

「勉強をあきらめない」という始業式の私の言葉に素直に反応してかどうか分かりませんが、授業中本当にがんばっている生徒諸君の姿をよく見かけます。また進級したり、中学生になったりしたことで、今までの自分をリセットし、がんばろうとしている姿もよく見かけます。そんな姿を見ると、心の底から応援したくなります。

話は変わりますが、新年度になり、高校の校長先生がよく本校の校長室にお話に来られます。話を聞いていると、今の高校の先生方は、本当によく生徒の面倒を見てくださっているようです。特別に支援が必要な生徒に対しての理解も進んでいます。

ただ、勉強する内容は、中学校の内容より確実に難しいという事実が変わりません。高校の校長先生方から、「たとえ点数は取れなくても、ねばり強く勉強に取り組もうとする人を求めています」とはつきり言われます。それは、昨年度の学校だよりも書きましたが、県立高校の入試問題も、問題文がとても長く、ねばり強く読まない、何を問うているのかなかたどり着けないことにもつながっています。

今の生徒の皆さんのがんばろうとする決意や行動をずっと続けることは、とても難しいことだと思います。でも、たまに息継ぎしながらも、先生方にしかられながらも、ねばり強く授業や勉強に取り組んでくれることを期待しています。



〔写真は、3年生の掃除と授業中の様子です〕

「部活動」って？

北九州市教育委員会から昨年度3月に学校向けに、また本年度4月には保護者向けに、「部活動休養日」についての方針が出されました。

私の部活動に対する基本的な考え方は、昨年度の学校だより6月28日号(学校ホームページに掲載)に、「部活動について思うこと」という表題で載せていますが、中学生の部活動には適度な休みが必要であることは言うまでもありません。

一方、先生方にも休みは絶対必要です。どんなに若いからといって、月に土日を1回も休むことなく部活動を行うことが先生方の健康上良いわけがありません。この頃よく聞く「働き方改革」の考え方や、先生方に健康上不幸な状況が起こらないためにも、適度な休みは必要です。

これらの世の中の動きを見ていると、あらためて、公立中学校が目ざすべき部活動の姿が、今問われているような気がします。生徒の皆さんが、将来もしも中学校の教員になり、学生時代にやったことのない種目の部活動を担当した時でも、生き生きとできる部活動のあり方とは、どんなものでしょうか。保護者の皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

また、部活動生の皆さんはせっかく自分で選んで入った部活動ですから、ぜひとも充実したものにしてください。そして部活動を充実したものにしてくれるのは、決して先生方ではなく、部活動生の皆さんの心がけ次第であることを忘れないでください。先生方は、皆さんが部活動で力を発揮しようとするのを手助けします。

「やってよかった」「もしも高校に行ったら、また部活動をしてみたいな」と思えるような中学校での部活動であって欲しいと思っています。